

委員会

医療事故防止委員会

○機能

医療安全管理に関する事項、職員への医療安全教育に関する事項、インシデント・アクシデントの統計分析報告、最新医療事故対策研究、医療訴訟に関する事項

○委員構成

委員長 1 名、副委員長 3 名、看護部長、事務長、各部署長、事務部の若干名

○2009年度の活動目標

「職員の安全管理意識を高め事故防止に努める」

- ①一人一月一インシデント報告ができる。
- ②患者誤認防止「患者に名乗っていただく」がどこの職員も習慣化できる。
リストバンドでの確認の定着を図った。
- ③職場巡視：労働衛生委員会との連携。
- ④安全管理員の役割強化。
マニュアル通りに行い、目標設定時には部署長が相談に乗ること。
- ⑤安全情報は内容に関係のある部署長が発表する。(月朝礼)
例えば薬剤に関しての安全情報は薬剤部が行うなど。
- ⑥医局への安全情報は院長が選び回覧する。(安全管理室が準備)
- ⑦委員会の月目標の決定は従来どおりとする。

○評価

- ①今年度のインシデント報告件数は 1953 件であり目標は達成できた。(末尾の表参照)
内容についても前年度より判り易くなって来ている。
昨年同様「インシデント報告目標達成表」を作成し、医局・職員食堂に掲示し、安全管理意識を高めることに努めた。年度末に最多報告部署の表彰を行い、他の模範とした。
- ②患者誤認防止については 238 件報告されている。
その中で同姓同名患者や同姓もしくは同名患者の誤認は 10 件と少なく患者誤認の約 4.2%であった。
職員への習慣化が進んでいる結果だと評価する。
- ③職場巡視は計画的には行うのが難しく今後の課題である。
- ④安全管理員は職員皆さんの協力によりマニュアルに則り実施できていた。時折次週の管理員への連携がうまくいかなかったことがあった。
- ⑤医療安全情報の広報
毎月の朝礼にて「病院機能評価機構よりの安全情報」看護部長・薬剤部長・2F 師長
安全管理室長が行い、情報を提供を現場で生かしている事実もあった。
- ⑥については医局会にて必要時院長より広報した。

⑦前月のインシデントに基づき月目標を決めていたがその評価が不十分。

○教育研修

年5回行った。全職員参加を目指したがテーマによっては職種が限られた。

今後の研修は不参加者への対策とテーマ選びである。

第一回 注射・輸液に関するリスクマネジメント (5/29)

第二回 「一次救急アルゴリズム (BLS)」「二次救急アルゴリズム」 (9/29)

第三回 「安全な血液製剤の取り扱いについて」「自己血採血の実際」 (11/13)

第四回 事例検討会「検査に対するクレーム」 (12/11)

第五回 医療機器取り扱い研修「輸液ポンプの取り扱い」について「シリンジポンプ取扱い」について

○2010年度の目標

「指さし確認を実行し事故防止に努める」

①全ての職場で「目で確認、声だし確認、指さし確認」を実行する。

②患者誤認防止対策は続行。

③一人一月一インシデント報告

④転倒転落防止策の見直し

○委員会開催日

定例会として月1回開催した。

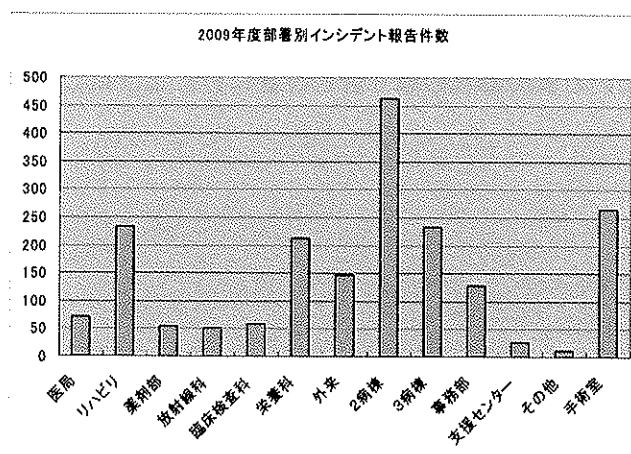
4/14 5/12 6/12 7/14 8/17 9/14 10/13 11/10 12/15 1/14 2/12 3/14

○まとめ

本年度の目標である「職員の安全管理意識を高め事故防止に努める」については活動目標の評価にあるように一定の成果を見ることができている。

今後の課題としては部署ごとにインシデント分析を行い、部署毎に職員が一丸となってPDCAサイクルを回してゆくことが安全管理意識をますます高め事故防止につながると考える。

2009年度インシデント報告件数（表—1）



医療ガス安全委員会

○設置目的

医療ガス安全管理に関する事項、定期点検に関する事項、業者との確認事項に関する事項災害対策（ガス）に関する事項

○委員構成

委員長、副委員長、委員 5名

○2009 年度活動報告

- ・ 山口県で実際に起きた一酸化中毒事件（修学旅行の宿泊先）を取り上げガス中毒の危険性と、避難の仕方について委員が学んだ。
- ・ 酸素欠乏事例と救助法について
- ・ 酸素ボンベの取り扱いと在宅酸素療法の事故事例の紹介と、在宅酸素療法患者への注意喚起について検討した。（支援センターにも協力依頼）
- ・ 看護部会にて DVD を使い医療ガス取り扱いについて教育を行った。

○2010年度の重点目標

①新入職員への教育

- ・ 今年度も新入職員を多数迎え特に新卒者が看護部・リハビリに数名入った為、基礎的な教育に取り組む。医療ガスの性質・その取扱い上の諸注意を十分教育していく。
講義・実技ともに強化する。教材の吟味を行う。

②その他の職員への啓蒙

ガス取り扱いは、取扱いを誤ると重大事故（火災・爆発）につながる恐れがある。したがって、医療用ガス及び器具の取り扱いについての再教育を行ってゆく。

○2009年度委員会開催日

4/7 6/12 10/13 12/12 2/12

○まとめ

今後も、安全なガスの取り扱いと其の器具の取り扱いが身に付くようにこれからも教育を計画します。

感染対策委員会

○設置目的

院内感染に関する事項 感染患者の状況把握と対策に関する事項

感染に対する研究教育に関する事項 感染者の統計処理 感染性廃棄物処理に関する事項

○委員構成

委員は各部署より1名以上とし委員長1名、副委員長1名、総数20名である。

○活動報告

目標 1. 感染マニュアルを見直しエビデンスに基づいた使えるマニュアルにする

2. スタンダードプリコーションを徹底する

・一行為手洗いの徹底、採血時の手袋の着用の励行

・滅菌、消毒、洗浄法の整備と統一化

1. 早朝カンファレンスにて感染患者報告を行い全職員へ周知させ感染対策意識を高めた。

2. オーダリングの掲示板にて毎月の活動内容を全職員に周知の掲示を行った。

3. 院外からの感染状況・流行を朝カンファレンスにて感染委員や安全部長より報告し感染意識を高めた。

4. 勉強会

新型インフルエンザについて 院長 7月7日 出席率 62%

病院感染対策のポイント 外部講師 2月19日 出席率 94%

5. 職員教育

①新人教育（入社時随時）

6. 職員の感染予防対策

①インフルエンザ予防接種 全職員 11月1日より11月5日

②新型インフルエンザ予防接種 12月3日より12月10日

感染予防対策 1階フロアー・リハビリ・検査室 2月中マスク着用とした。

面会患者に対し 掲示板告知 マスク着用 手指消毒の準備 12月～2月15日まで高校生以下の面会制限を行った。

③新型インフルエンザ対策臨時会議開催

・発熱外来対応

・入院患者の新型インフルエンザ発生対策

・外来患者の対応と隔離につて

④新人職員 B型ワクチンの接種 5名

7. 研修参加 11/21 感染防止委員会

8. 針刺し事故 MRSA発生率統計報告

○2010 年度の重点目標

感染対策マニュアルを実践し院内感染の防止を図る。

マニュアルを見直しエビデンスに基づいた使えるマニュアルにする。

スタンダードプリコーションを徹底する。一行為手洗いの実施

○2009 年度の委員会開催日

4/14 5/12 6/12 7/14 8/17 9/14 10/13 11/10 12/15 1/15 2/12 3/12

臨時感染委員会

①新型インフルエンザについて 6/30 10/1 10/23 11/11 11/24

○ まとめ

早朝カンファレンスで、入院患者の感染症報告が行われ全職員が情報の共有を行う事で感染対策に役立てた。その結果今年度は幸いに針刺し事故報告 0 となった。

また院外のサーベランス情報や保健所等の官報を広報し感染管理意識を高めるようにした。

新型インフルエンザ感染対策としては、国や県の情報を受け臨時の委員会をその都度開催しその対策にあたった。最新情報収集を行い流行時の程度の基準をⅠ～Ⅲと決め病院全体にて対策・院内研修や面会制限・手洗い・マスク着用の徹底まで行い院内感染の発生を防止する事が出来た。さらに、ノロウィルス発生患者の入院時には、マニュアルに添った看護ケアを実施し、院内感染の拡大を防止する事が出来た。今後は 感染経路別マニュアルを見直しエビデンスに基づいた使えるマニュアルを作成しスタンダードプリコーションを徹底し感染防止に対する意識を持ちさらに職員の感染対策に関する知識を深め感染防止に努めて行きたい。

情報管理委員会

○設置目的

診療録等の管理に関する事項 診療録の廃棄に関する事項 診療録の貸出に関する事項
診療録の開示に関する事項

○委員構成

委員長 西田 副委員長 佐藤 以下7名

○2009年度の活動報告

毎月の委員会開催時に診療録の監査内容の報告を行った。委員会の中でも監査を行い問題点について協議した。添付する文書の劣化に対しても注意・指導を行った。

カルテの貸出に対しても期限越えることなく回収できた。またアリバイ管理に関しても徹底できた。

サマリー記入について本委員会及び医局会にて呼びかけ達成率の向上に努めた。

今年度の診療録開示請求は4件であった。

○2010年度の重点目標

クリニカルインディケーターの設定

情報管理室と連携をし、各委員会や部署にて統計的な資料を提供する。

○2009年度の委員会開催日

4/20 5/25 6/22 7/21 8/24 9/24 10/23 11/24 12/28 1/18 2/23 3/23

○まとめ

本委員会の活動により、年々カルテに対する職員の意識は高まってきたのではないかと考える。

引き続き活動の継続と職員の意識の向上を目標に行って行きたいと考える。

IT 委員会

○設置目的

院内情報システムの管理 運用方法の検討と決定
システムトラブルの対応 システム保守

○委員構成

委員長 佐藤 副委員長 首藤 委員 11 名

○2009年度の活動報告

サブシステムの開発に関する検討と導入時の運用等の取り決めを行った。

開発・改修システム一覧

文書管理システム一部改修

院内報告システム（入退院患者数・外来患者数等各種統計出力が可能）一部改修

看護サマリー作成システム開発

情報システムは年間を通じて診療に影響するシステムトラブルは1件

内視鏡室管理システム開発

栄養管理システム・放射線画像管理システム・医事会計システム保守契約締結

○2010年度の重点目標

回復期リハビリシステム改修

オーダーリングシステムの導入検討

グループウェアシステムの運用見直し

各部門別のハード点検

○2009年度の委員会開催日

4/20 5/25 6/22 7/21 8/24 9/24 10/23 11/24 12/28 1/18 2/23 3/23

○まとめ

保守契約の締結やマスタメンテナンスなど既存のシステム保守を重点的に活動した。

来年度はシステムの保守だけではなく、それを使用する端末等のハード面の点検等を行い、使用する人の教育も充実する必要があると考える。

倫理・個人情報保護委員会

○設置目的

倫理、個人情報基本方針による

○委員構成

委員長 副委員長 委員 11名

○2009年度の活動報告

☆毎月1回の倫理個人情報委員会を行う(個人情報に関する事、抑制に関する事、倫理に関する事)

☆倫理に関する勉強会開催(7月15日)

○2010年度の重点目標

個人情報の勉強会を行う

個人情報についてのセキュリティー管理の体制作りと強化

個人情報関連の問題発生に対する迅速な対応マニュアル整備

○2009年度の委員会の開催日

4/16 5/23 6/22 7/21 8/24 9/24 10/23 11/24 12/28 1/18 2/22 3/23

○まとめ

個人情報委員会では、定例の委員会にて、院内セキュリティー管理の強化、問題発生時のマニュアル整備を行いたいと思います。又、個人情報に関する事例検討を数多く行い、業務改善を図りたいと思います。

褥瘡・栄養対策委員会

○設置目的

明野中央病院に於ける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効果的な推進を図る。

○委員構成

委員職名	部 署	氏 名	職 名
委員長	リハビリテーション科	佐々木	理学療法士
副委員長	看護部	玉井	看護師
委員	診療部	西宮 Dr.	医師
	栄養科	中村	管理栄養士
	薬剤科	尾中	薬剤師
	看護部	園田	看護師
	看護部	羽田野	看護師
	看護部	渡辺	看護師
	看護部	平川	看護師
	看護部	畑	看護師
	看護部	赤星	看護師
	リハビリテーション科	村上	作業療法士
	リハビリテーション科	古谷	作業療法士

○2009 年度活動報告

- ・ 週 1 回（毎週火曜日）褥瘡回診と月 1 回委員会を実施
- ・ 褥瘡対策委員会および回診では、当院褥瘡発生患者の原因分析及び治療方針、対策の検討を実施
- ・ 褥瘡予防対策の実施
- ・ 褥瘡予防用具の管理及び効果的な使用状況の検討を実施
- ・ 褥瘡対策マニュアルの見直し
- ・ 2009 年度褥瘡発生状況の把握

* 褥瘡発生状況（資料添付）

○2009 年度の目標

- ・ 当院褥瘡発生者の原因を追究する。

○2009 年度の委員会開催日

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| ・ 4 月 21 日（火） | ・ 8 月 18 日（火） | ・ 12 月 22 日（火） |
| ・ 5 月 19 日（火） | ・ 9 月 15 日（火） | ・ 1 月 19 日（火） |
| ・ 6 月 16 日（火） | ・ 10 月 20 日（火） | ・ 2 月 9 日（火） |
| ・ 7 月 21 日（火） | ・ 11 月 17 日（火） | ・ 3 月 9 日（火） |

○総括

褥瘡回診と委員会の実施により、当院褥瘡発生患者の原因分析及び治療方針・対策の検討を行い、今年度の目標である「当院褥瘡発生者の原因を追究する」取り組みの推進を図ることが出来た。また、NST との連携により情報を共有することで、早期から褥瘡予防対策を実施することが可能となり、褥瘡発生者数の減少に繋がったと考える。

2009 年度の褥瘡発生者は 28 名、治癒した患者数は 16 名、治癒率は 57.1%であった。

発生者の内訳としては、当院発生者 9 名、持ち込み者 19 名であり、2008 年度と比較し当院発生者数は 8 名減少し、治癒率は 36.4%から 57.1%に改善がみられた。

今後は、当院発生者の原因分析及び診療計画書の評価を基に、早期から予防対策の実施に努め当院発生者 0 を目指していきたい。

2009年度褥瘡発生状況

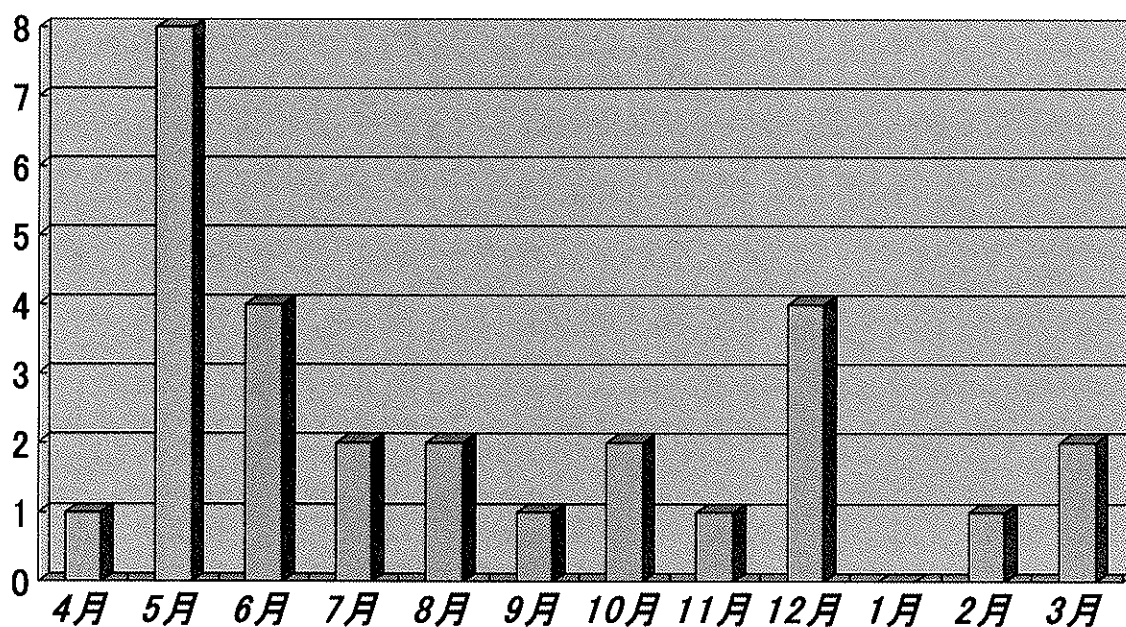
○褥瘡発生者数 28名

○入院時の褥瘡の有無

{ 入院時・無 9名 (当院発生)
 { 入院時・有 19名 (持ち込み)

○褥瘡が治癒した患者数 16名

(人) 【2009年度月別褥瘡発生者】



2009年度 褥瘡治癒率 57.1%

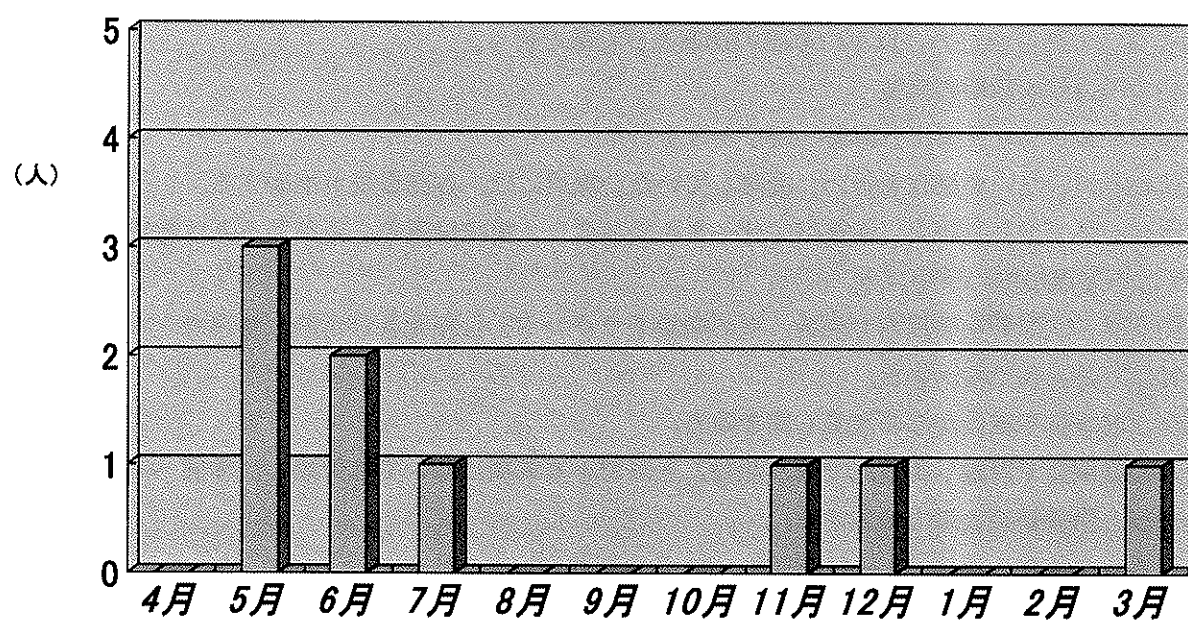
褥瘡対策委員会

2009年度褥瘡発生状況(当院発生患者)

○褥瘡発生者数 9名

○褥瘡が治癒した患者数 6名

【2009年度月別褥瘡発生者】



2009年度 褥瘡治癒率 : 66.7%

褥瘡対策委員会

労働安全衛生委員会

○設置目的

職員の安全管理及び健康管理に関する対策を討議・検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

○委員構成

委員長 長島師長 副委員長 里谷事務長 委員 12名

○2009年度の活動報告

月1回委員会の開催を行い、以下の事項の調査及び審議を行う。

○年2回の職員健康診断の実施

- ・受診率100%を目標に各部署へ呼びかけを行う。
- ・未受診者がいないか調査を行い、受診していない職員には、各部署長が催促する。
- ・健康診断終了後、各個人、検査部でデータを受け取り、精密検査の必要がある人は診察を勧める。

○3ヶ月に1度職場内のラウンド

- ・訪問部署と訪問者を委員内で決め、その職場をラウンドし、衛生及び危険な場所などないか調査する。写真にて委員会で検討する。
- ・また、部署長や職員からの意見も聞き取る。
- ・翌月の委員会で討議し委員内で取り組むことができる事項については対処し、幹部への報告が必要な場合は、診療管理会議で報告する。

○年2回の火災訓練の実施（5月昼間想定、11月夜間想定）

- ・緊急連絡網のテスト

○2010年度重点目標

- 年2回の防災訓練及び職員連絡網による緊急連絡テストを行い、防災意識を高める。
- 2ヶ月毎の職場訪問を行い、安全な職場作りに努める。

○2009年度の委員会開催日

2009年度 5/8 6/5 7/3 8/7 9/4 10/2 11/6 12/4

2010年度 1/21 2/5 2/15 3/5

○まとめ

毎年、年2回の職員検診を行っているが、今年度の受診率はほぼ100%であった。

3ヶ月に1回のラウンドを行い、各職場の危険と思われる場所を写真に撮り検討し対策をたて改善してきた。

また、年2回の防災訓練を行うことにより防災意識を高めている。

しかし、職員連絡網による緊急連絡テストが確実に行えなかったため、職員一人一人が緊急連絡網の重要性を考え、行えるよう努めていきたい。

広報委員会

○設置目的

病院広報誌の編集・発行、院内掲示板の管理、病院ホームページの作成・管理等、広報活動全般に関する検討及び提案を行う。

○委員構成

委員長、副委員長、他8名

○2009年度活動報告

- ・ 広報誌発行（ふくろう便）6月・9月・1月に発行
 広報誌発行（あけのスケッチ）※リハビリテーション病棟発行
 ※市内の医療機関・介護施設を中心に約300件郵送
- ・ 専門外来用広報誌の発行（こつ・かんせつ・リウマチセンター）
- ・ 病院案内のリニューアル
- ・ ホームページ管理
 トピックスとして年間37回の更新
 その他掲載情報の更新や新規追加
- ・ 院内掲示板の整理・管理業務

○2010年度の重点目標

- ・ ホームページデザインの変更の検討
- ・ 掲示板管理方法の変更

○2009年度の委員会開催日（17回）

4/1 4/15 5/13 5/27 6/17 7/1 7/15 8/5 8/19 9/2 9/17 10/7 11/4 12/16 1/6 2/3 3/3

○まとめ

広報委員会は、ホームページ、広報誌、院内掲示板の運営を中心に取り組んでいる。

当院の情報を開示、発信する手段として上記以外にも有意義な方法があれば取り組んでいきたいと考えている。

教育委員会と共催での患者健康教室なども考えられるが、今後の検討課題である。

明野地域の健康関連情報発信基地を目指して、今後ともいろいろな挑戦を試みたい。

サービス向上委員会

○設置目的

医療法人社団唱和会明野中央病院における患者サービスに関する事項、サービス向上の為の業務改善、効率化、環境美化及び職員の服装マナーに関する事項を行うことを目的とする。

○委員構成

委員長 1 名・副委員長 1 名・委員 5 名（看護部 2 名・医療技術職 2 名・医事課 1 名）

○2009年度の活動報告

・「挨拶で、仲間作り」を活動目標として下記の活動を行った。

①ポスターの掲示・朝礼で周知・徹底を行った。

②患者さんのご意見箱の意見を収集、(年間 41 件) ストレッチャーなどの掃除・清掃の件で検討、清掃業者との見直しを行った。また、笑顔での対応、静寂（話し声・足音・靴）携帯電話の使用について朝礼で周知した。

③職員意見箱の意見を収集、(年間 1 件) 職員の食事について、残飯が多い。急に休む時の連絡周知を朝礼で行った。

④患者様満足度調査年間 2 回（7 月・12 月）実施し、改善・指導など掲示板・ホームページで周知した。

・ 1 回目 7 月（外来 100 名・病棟 37 名）

・ 2 回目 1 月（外来 96 名・病棟 49 名）

⑤職員満足度調査を実施し、病院総会で回答・検討会が行われた。

2010 年 3 月実施（74 名）

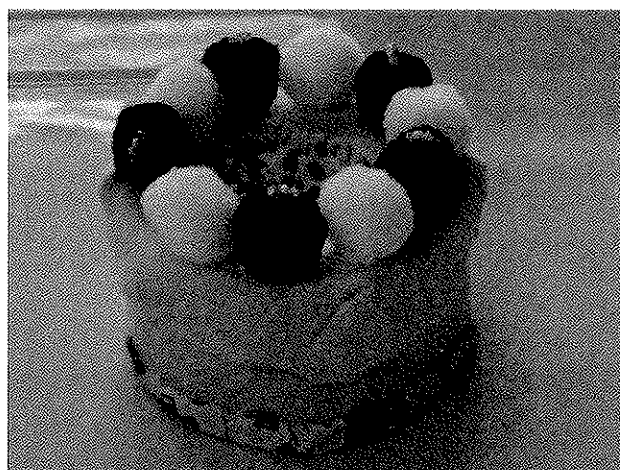
⑥外来待ち時間調査を行う（年 2 回 2 月・12 月）

前回の評価・検討、朝の回診の検討・医事課の朝の応援・本の充実・外来問診などのラウンドし、待ち時間の緩和を図る。次回は、1 日 30 人対象とし、内容を検討する。

⑦節電のポスター作成し、エコを呼びかけた。

⑧委員環境チェックから 1 回／月院内ラウンド 1 月から開始する。掲示物の指導を行う。

⑨誕生日会の継続（お花・カード・昼食時のデザートなど）、とても、心温まるとの意見が聞かれたケーキを食べられない患者さんには手芸の手作りケーキをプレゼント。



○2010年度重点目標

- ・「挨拶で、仲間づくり」継続

○2009年度の委員会開催日

- ・4月17日・5月22日・6月18日・7月17日・8月21日・9月25日
- ・10月23日・11月20日・12月18日・1月15日・2月19日・3月19日

○総括

笑顔での挨拶がまだまだ浸透していない為、基本となる挨拶を中心とし、良い職場・仲間づくりを目指し目標を掲げ活動していきたい。また誕生日のお祝いの言葉かけは、定着化し、患者さんとの良い人間関係が保たれ好評であるため、このまま継続していきたい。さらに1回／月院内のラウンドを継続し、環境美化に力を入れる。外来の待ち時間においては、状況を把握し外来のサービスに貢献する。意見箱への職員からの意見が少ないので設置場所の検討・エコについても考慮し今後の活動に取り入れたい。

教育委員会

○設置目的

当院における医療事故防止教育、感染対策症教育、倫理教育、および職員の質向上をおこなう。

○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、その他委員は各所属長が指名する。

○2009 年度活動報告

- 4 月 1 6 日 接遇勉強会
- 5 月 2 9 日 ハイリスク薬勉強会
- 6 月 1 1 日 NST 勉強会
- 7 月 1 5 日 新型インフルエンザ勉強会
- 8 月 1 日 院内研究発表会
- 9 月 2 9 日 AED 講習会
- 1 1 月 1 3 日 輸血・自己血勉強会
- 1 2 月 1 1 日 医療安全勉強会
- 2 月 1 9 日 感染勉強会
- 3 月 5 日 介護保険勉強会

○2010 年度重点目標

職員のリスクマネジメント能力の開発・研修

○2009 年度委員会開催日

毎月第一金曜日

○まとめ

2009 年度の目標は

- ①地域のニーズに答えられる、職員の育成
- ②接遇、コミュニケーション技術について学ぶ。であった。特に接遇教育については、外部講師 大橋美恵子先生をお招きして「患者の心をとらえる接遇の仕方」と題し講演を行い、大変好評であった。
ほとんどの研修会が専門的な内容が多く、一般の職員の方には分かりにくい物も多いが、なるべく理解しやすい内容で研修を行い、専門的知識の必要な研修では、参加部署を特定して行っていきたい。

図書委員会

○設置目的

広く職員が利用し、知識と技能の向上に役立てる。

○委員構成

委員長、副委員長、委員 6 名

○2009 年度活動報告

インターネットによる文献検索のマニュアルを作成し、職員が利用し易い環境を整えた。

定期的に図書の整理を行い、職員が利用し易いように環境美化に勤めた。

各部署の月刊誌の購入。

○2010 年度重点目標

本年度は病院機能評価の受審年であるので、再度蔵書の整理と新たな管理体制を構築する。

図書室が広く職員に利用し易い環境を整え、利用頻度が上がるよう努める。

○2010 年度委員会開催日

毎月第一金曜日 13:30

○まとめ

職員の様々な研究活動をサポートする場として、環境整備に努める。

様々な文献を利用し易い環境を整え、職員の利用頻度向上を図っていく。

クリティカルパス委員会

○設置目的

医療内容の標準化と質の向上目指した、クリニカルパスの検討。
パスの作成、運用を目的とする。

○委員構成(2010 年度)

委員長 工藤整形外科部長

副院長 春岡副師長

委員 看護部から 11 名、薬剤部、リハビリテーション科、放射線科、検査科、栄養科、
支援センター、事務から各 1 名

○2009 年度の活動報告

パス使用状況の把握とバリエーション発生の把握と見直し

ミエロ、腰椎後方手術、関節鏡、人工骨頭、人工膝関節のパスの使用状況を 8 月から項目別に集計しバリエーションの発生件数集計も行なった。その中で、腰椎後方手術に関しては、術式により早期に退院する症例もありパスの見直しが必要となった。また、パスについての理解を深めるためパス関連の図書を購入し、委員会でミニ勉強会を行った。

○2010 年度の重点目標

1. パスの使用マニュアルと使用基準の見直し。
2. 現存のパスの見直し。
3. 新規パスの作成。
4. パス使用状況の把握とバリエーションの分析。

○2009 年度の委員会開催日

毎月第 3 火曜日 17:00

○まとめ

今年度はパスの使用状況の集計を主として行なったが、ミエロ、腰椎後方手術、関節鏡、人工骨頭、人工膝関節の手術に関してはほとんどの症例でパスを使用していた。医療者用パスと共に患者用パスを使用し、術後の経過や、リハビリ、入浴や退院の時期を患者さん自身が確認できた。また、それに合わせた退院指導用パンフレットを作成し、指導を行うようにした。しかし、パスと看護記録の関連に若干の問題もあり、今後はさらに合理的に使えるようなパスの検討と新規のパスの作成を行ないたい。

その他

NST（栄養サポートチーム）

○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取(投与)方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

○委員構成

医師(西宮) 管理栄養士(中村) 薬剤師(尾中) 言語聴覚士(松本) 看護師(園田 平川 羽田野 渡辺 赤星 玉井) ソーシャルワーカー(志賀) 理学療法士(岩尾)

○2009年度の活動報告

- ・毎週火曜日 14:00～ 対象者のカンファレンス及び回診

(対象者) NST 介入者 SGA 評価(B.C)患者 摂食嚥下障害対象者 褥瘡患者 アルブミン値
3.0 未満の者 前回様子見患者 食事摂取量低下患者 大幅な体重減少患者

(NST 介入患者数) 3 名/年

(様子見患者数) 80 名/年

※アルブミンチェック表を新たに作成(6月より)様式の見直し(10月)

※補助食品(高カロリージュース(ゼリー))提供時の第一選択のものを決定した

対象患者は、アルブミン値 体重 必要栄養量に対する摂取割合等をグラフ化する(2010.1月より)

※NSTの稼働申請をし稼働認定施設となる(平成22年度)

○2010年度の重点目標

- ・対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の栄養状態をアップし早期退院や社会復帰を助ける
- ・対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるように多職種で患者をみる

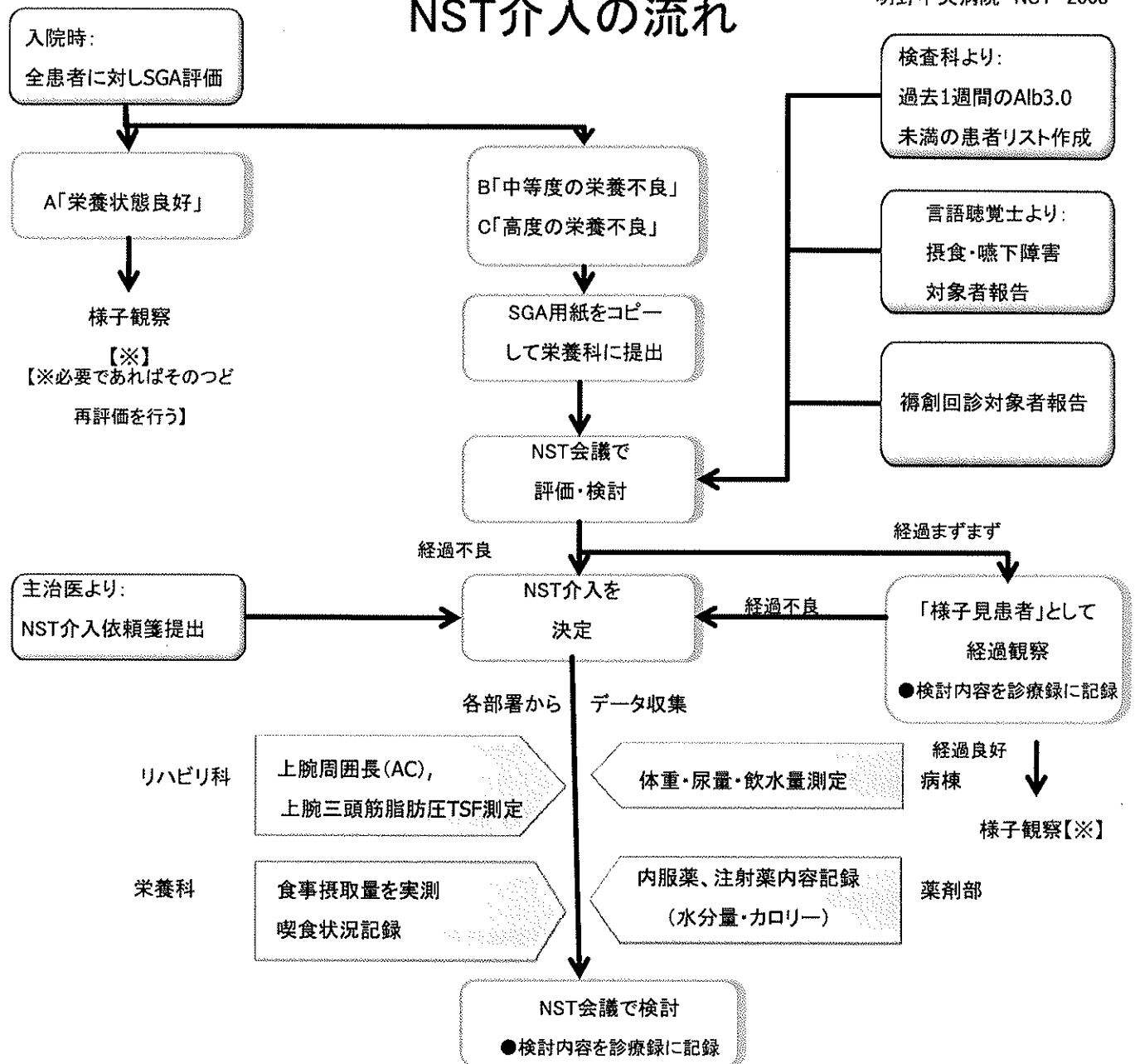
○2009年度の委員会の開催

4/28 5/26 6/30 7/28 8/25 9/22 10/27 11/24 12/29 1/26
2/23 3/30

○まとめ

入院時全患者に対し早期に栄養状態の把握を行う。また、栄養状態不良患者に対しても早期に NST が介入し栄養状態の改善につとめたいと思います。

NST介入の流れ



NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー

医師
病棟看護師
管理栄養士
健康運動指導士
言語聴覚士
薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未満の患者

糖尿病相談会

○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解・普及を高める。

○委員構成

医師（木下院長） 管理栄養士(中村) 薬剤師(尾中) 看護師（池田）(武藤)（玉井）
理学療法士(紺野)

○2009 年度の活動報告

○第 22 回糖尿病相談会 テーマ 「上手な食事療法」

開催日：2009 年 6 月 6 日(土) 場所 管理棟会議室 参加人数：6 名

開催目的：ふだん敬遠されている井物の糖尿食の実食会を開催し、工夫することで

低カロリーでも、美味しく、かつボリューム感のある食事に行うことができる事を体験してもらうと同時に、食事療法への理解を高める。

○第 23 回糖尿病相談会(10 月予定)・・・・・・新型インフルエンザ流行の為中止

○クリニカルパスの実施 0 名

○2010 年度の重点目標

○糖尿病に対する基礎知識の理解普及

○相談会の年 3 回以上の開催

○糖尿病療養指導士の資格獲得をめざす(看護師 1 名)

○2009 年度の委員会開催日

6/3 7/13 8/31

○まとめ

平成 21 年度は新型インフルエンザの流行等もあり相談会の実施が 1 回しか開催できなかった。

糖尿病の教育入院は数件あったが糖尿病教育入院のパスの使用はなかった。

2010 年度は、糖尿病相談会の開催を年 3 回実施しを目標にし、地域の糖尿病患者さんの治療に支援したいと思います。

親和会（厚生会）

○スタッフ構成（２００９年４月）

会 長、副会長、会 計、会計監査

委 員 リハビリ ３名、看護部 ４名、栄養科 １名、臨床検査科 １名、医事課 １名

○親和会の目的

本会は会員の親睦と福祉の向上を計ると共に 明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

○役員改選

役員の任期は毎年４月より翌年３月末までの１年間。

○総会

総会は通常総会と臨時総会の２種類とする。

通常総会は毎年４月に開催し、会長が招集しなければならない。

臨時総会は会長が必要を認めたとき、又は、会員の３分の１以上の要求があったとき随時開催する。

議長は会員の選出で決定する。

総会は会員の過半数をもって成立する。但し、委任状出席を認めるものとする。

○会計

①収入 １．会費 ２．寄付金 ３．その他 必要に応じ臨時会費を徴収することもあり得る。

②支出 １．旅行 ２．レクリエーション ３．忘年会 ４．慶弔見舞金 ５．その他

③会計年度は 毎年４月１日より翌年３月３１日までとする。

④会計報告は 毎年４月の総会で行う。

○２００９年度活動報告

①花見を実施

実 施 日：２００９年４月３日

開催場所：城址公園

参加人数：６９名

④忘年会を実施

実 施 日：２００９年１２月１５日

開催場所：トキハ会館

参加人数：１３８名

②ボーリング大会を実施

実 施 日：２００９年６月２５日

開催場所：OBS ボール

参加人数：５８名

③バーベキュー大会を実施

実 施 日：１１月１４日

開催場所：高尾山公園

参加人数：５６名

新聞記事

平成21年5月10日 日曜日 中部 10

明野中央病院
森麻酔科医師を迎えて地域医療に貢献
大分市東明野二丁目三十三号



森正和医師

明野中央病院（木下昭生院長）に四月一日より麻酔科・手術室部長として森正和医師が着任しました。
森医師は、大分大学医学部付属病院をはじめ県内外の医療機関にて手術室、集中治療室における麻酔及び集中治療領域全般について研鑽を積んだ麻酔科専門医です。麻酔科医は手術における全身麻酔中、

呼吸や血圧などの状態を常に監視し、異常があれば迅速に対処して、全身状態が安定化するよう管理します。また麻酔から覚めた後も患者さんの観察を続け、痛みの軽減などに努めます。木下院長は、「当院は整形外科、形成外科を中心に多くの手術を行っており常勤麻酔科医の着任で、手術前後の全身管理だけでなく、医療安全の質向上、更なる医療安全の充実が期待される」と話していました。
森医師は、「無事安全に手術を終えられますよう全力を尽くします」と包負を語っていました。

明野タイムズ掲載

大分新聞

【大分新聞社】大分合同新聞本社
097-539-2121 FAX 539-6629

由布新聞

【由布新聞社】大分合同新聞由布支局
0977-02-0170 FAX 28-2873

とことん地域密着
県内18地域それぞれの「地域新聞」が合併して大分合同新聞です。



携帯でピッ!



ちなんで毎年行われており、十四分がサーキットを走り、各部署の屋上やシーツの交換、ストレッチャーの使用体験などをした。
入院患者の足踏では、生徒たちは看護士の指導を受けて、足踏の要領を学んだ。生徒たちは、慣れない手つきで足踏をこなしていた。



ハブリカで作業体験

大分合同新聞掲載

看護の心をみんなの心に 一日看護師体験

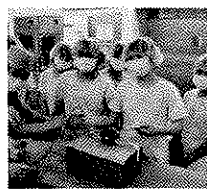
明野中央病院

5月9日（土）、明野中央病院にて5月病棟見学では、まず12日の看護の日にちなみ恒例となった一日看護師体験が行われた。参加したのは明野中学校の3年生14名。当初20名以上の参加希望者があり、参加に当たっては抽選が行われたという。説明と指導を担当した玉井看護部部長さんからは、看護士としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。



看護師としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。参加した生徒たちは、説明と指導を担当した玉井看護部部長さんからは、看護士としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。参加した生徒たちは、説明と指導を担当した玉井看護部部長さんからは、看護士としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。

参加した生徒たちは、説明と指導を担当した玉井看護部部長さんからは、看護士としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。参加した生徒たちは、説明と指導を担当した玉井看護部部長さんからは、看護士としての責任と、患者さんへの思いやりが大切であることが語られた。



大分団地新聞掲載

明野中央病院
明野中学生二日
看護師体験学習



明野中央病院（木下昭生院長）は、五月十二日のナイチンゲールの誕生日を記念して明野中学生の一日看護師体験学習を毎年行っており、今年も明野中学三年生十四名が参加し五月九日一日看護師体験学習を行った。生徒はナース服に着替えて木下昭生院長より変換状が渡されたあと、各部所に分れて血圧測定やシーツの交換、また入院患者の手や足を洗って上げたり、手術室では内視鏡を使っているような手術を行っている体験学習も行った。

一日看護師体験学習に参加した生徒達は、これから将来お年寄りが増えるため、看護師になりたいと思ひ一日看護師体験学習参加し大変良い勉強になりましたと話していた。また鈴木看護部長は、将来は看護師を目指して頑張ってくださいと話しかけていた。

明野タイムズ掲載

明野中央病院広報誌 明野ふくろう便より

新看護師長 木付 ひとみ



外来部門から回復期リハビリテーション病棟に配属されて、3ヶ月が経とうとしています。回復期リハビリテーション病棟とは、患者さん、家族の方を中心に、専門のスタッフがあらゆる角度から、日常生活動作の援助を行い、ゆっくり一緒に歩むことができる場所です。看護師になって20数年間、常に「看護とは」と自問自答しながら勤務してきました。やっと「患者さん、そしてご家族と真正面から向き合える場所にたどりついた」という気持ちでいっぱいです。今、そういう場所を私に提供してくれた病院にととても感謝しています。皆で話合い、励ましあいながら一緒に歩んで行きましょう。

明野タイムズ掲載

「大変」洗髪やシーツ交換

明野 病院で職場体験



大分市明野中学校（稲津喜英校長、9・17人）の2年生278人が、市内80の事業所で職場体験学習をした。市内明野東の明野中央病院では、（顔写真右から）市原勝吾君（14）、岡原真子さん（14）、佐藤加歩さん（14）、前田翼君（14）が洗髪やシーツ交換、救急カートの必要物品のチェックなどに取り組んだ。星澄では、患者の足にせ

丁寧に足浴の手伝いをする生徒ら。大分市の明野中央病院



「手術室に入っているような器具があってびっくりした」。前田君は「家と病院のシーツ交換は、方法が違って大変だった。説明を受けて交換するうちに簡単になった」と話した。

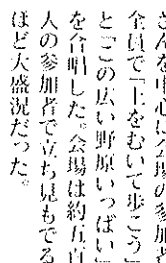
つけんを付けて指の間などを丁寧に洗い、タオルで優しく水気をふき取った。佐藤さんは「シーツ交換は難しかったけど、慣れたら楽しかった」。岡原さんは「頭を洗うのは思ったよりも難しかった。気持ち良くなるように相手の立場で考えたり、工夫していることが分かった」。市原君は「手術室に入っているような器具があってびっくりした」。前田君は「家と病院のシーツ交換は、方法が違って大変だった。説明を受けて交換するうちに簡単になった」と話した。

大分合同新聞掲載

藤川陽祐医師

また全国で自転車と健康についてプロモーションを展開している絹代さんが、自転車で健康を保つためにはどうしたらよいかについて実際に自転車を使って解説した。

さらに、沖繩出身の砂川忠理歌さんが、「粒の種」を含む三曲を熱唱した。最後に織部医師、砂川忠理歌



明野タイムズ掲載



トクあり歌あり
健康セミナー開催

明野中央病院

心と体の健康づくりに役
立ててもらおうと、大分市
の明野中央病院（木下昭生
院長）は12日、同市明野東
のあけのアクロスタウンで
健康セミナー（大分合同新
聞後援）を開いた。

地域住民など約500人

が参加。同病院の医師らが骨や関節の病気を説明、病気になるために日ごろのケアが必要と話した。

自転車での健康づくりをテーマにした本の著者で、健康管理士の網代さん（横浜市）が「自転車の有酸素運動は美谷と健康のために有効」と講演。沖縄県在住で歌手の砂川恵理歌さんが、がん患者の最期の言葉

を詩にしてできた「一粒の種」を歌い、命の大切さを訴えた。

大分団地新聞掲載

**明野中央病院健康セミナー
骨と関節とリウマチの話**

10月12日(月)、明野ンター長の藤川陽アクトスホールにて、明野中央病院健康セミナーが行なわれた。この日は、骨と関節とリウマチの話をテーマに講演会やコンサートが行なわれた。また、曲津・体力測定、各種展示がコナオも設けられ会場には立ち見客も多く集まり、賑わった。(はじめに、主催である明野中央病院長の木下昭生院長から「今の若い世代が皆さんの健康にお役に立つと思います。今日は楽しんでください」と挨拶が行なわれた。

講演会は、最初に明野中央病院こつ・かんせつ・リウマチセミナーで講演する骨と関節とリウマチの話の講演者、明野ンター長、藤川陽先生による骨と関節とリウマチの講演がある。この講演では、人間の骨の数や構成など基礎知識から骨質の低下や骨折の原因、関節症、変形性膝関節症の症状や改善策などについて、講演者が行なわれた。藤川先生の講演に続いては、サイルイブチングタンで健康上の悩みを解決する同車を使用した。

講演後は、最後にコンサートが行なわれ、会場には立ち見客が多く集まり、賑わった。

明野中央病院健康セミナー
骨と関節とリウマチの話

明野ンター長、藤川陽先生による骨と関節とリウマチの講演がある。

この講演では、人間の骨の数や構成など基礎知識から骨質の低下や骨折の原因、関節症、変形性膝関節症の症状や改善策などについて、講演者が行なわれた。

藤川先生の講演に続いては、サイルイブチングタンで健康上の悩みを解決する同車を使用した。

講演後は、最後にコンサートが行なわれ、会場には立ち見客が多く集まり、賑わった。

た健康でなければならぬ。この話が行なわれた一説的なシネサイタルとロンドン・エリザベス王后の死に因り、イギリス警察が自転車生活で得られた身体と心のもとのゆえについて語られた。その後、神田在住のシンガー、沖畑理恵さんによるコンサートが行なわれた。全員の医師施設や学校を在訪して、チルドレンを助けて、チャリティを支援する。

そして最後は講演は、織部リウマチ内科クワニック院長の織部リウマチの話である。織部リウマチは薬で治せる時代というところで、織部先生は関節リウマチの症状、どのような薬を使ういながら治療を進めていくのかなどを、分かりやすくとき折笑いも交えながら講演を行なった。すべての講演が終わると、今回講演をした4名の講師とあとトビヤン、トビヤンコーナリーが設けられ、参加者がうらた絵図に、関係者や、自転車に関する質問や、自転車に関する質問などが書かれていた。最後に歌うことになったのは、身体障害者のグループ「上を向いて歩こう」の歌い手野田つばき。この会では野田つばきを、織部先生のセキシーな衣装を着て、海軍提督の制服を着て、花嫁装束を飾った。

— 82 —

明野中央病院でクリスマス会

明野タイムズ掲載



明野中央病院(木下昭生院長)では、明野中央病院ボランティアの会(志水篤信会長)の主催で、十二月五日クリスマス会を行った。クリスマス会では、入院患者さんやその周辺の方々の



可愛いひよつとこ踊り

参加で、フラダンスや民謡とひよつとこ踊り、また入院患者さんや看護師の皆さん達で「青い山脈」や「あんたがたどこさ」等の歌を合唱で会場は大変盛り上がっていた。

ある患者さんは、可愛い子ども達のひよつとこ踊りを見て、何時も見舞いに來てくれる孫を思い出しながら大変感動しましたと話していた。木下昭生院長は今年も明野中央病院ボランティアの会のご協力を頂き大変素晴らしいクリスマス会が行われた事に感謝しますと話していた。

明野中央病院 新春明野寄席

1月30日(土)、明野中央病院にて新春明野寄席が行なわれた。ここの日は、院内のリハビリテーションセンターを会場に院内外から約100名が参加した。今年も眼南落語組合から関三千男さん、岩本正慶さん、中山和充さんを招き「老婆の休日」・「古典落語のつる」・そして「転失」の3演目を上演。関三千男の「老婆の休日」は病院が舞台の話で、日常の風景が面白おかしく切り取られていた。また、岩本正慶さんは古典落語の「つる」は、鶴の名前の由来を伝えようとされる様子を愉快に口演。とりを務めた中山和充さんは和尙さんの知ったかぶりにより起きてしまった笑い話「転失氣」を口演。「転失氣」の意味を会場の



大分団地新聞掲載

明野中央病院で新春落語寄席

明野タイムズ掲載

明野中央病院(木下昭生院長)では、一月三十日新春落語寄席を開催した。



演目・寿限無を語る岩本正慶さん

新春落語寄席は、眼南落語組合寿限無会の岩本正慶さん(演目・寿限無)、関三千男さん(演目・老婆の休日)、中山和充さん(演目・転失氣)の三名が出演し、会場から大きな笑いと拍手が送られていた。

八十歳のある入院患者のお婆ちゃん、年々年始テレビで落語を聴きましたが、実際に目の前で一味違った落語を聴く事が出来、笑いや感動を与えてくれて大変楽しかったですと話していた。

新春落語寄席に出演した岩本正慶さん(明治地区小池原在住)は、地元明野中央病院の新春落語寄席に出演し、会場には顔馴染みの方もしましたが、楽しく落語を語る事が出来て大変良かったですと話していた。



医療法人社団唱和会 明野中央病院

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097) 558-3211 FAX (097) 558-3709

E-mail : akenohp@fat.coara.or.jp

[http : //www.coara.or.jp/~akenohp/](http://www.coara.or.jp/~akenohp/)